

「自分らしく生きていくときこそ」

東栄町立東栄中学校 三年

おおの みそら  
大野 美宙

私の周りには、障がいのある人がいます。発達障害の子や知的障害の人など、たくさんの人たちと毎日過ごしています。

私の学校にも、障害のある子がいます。私は、「障害がある」と聞くと、障がいのない人とどこか分けてしまうことがありました。しかし、実際はどんな障害があっても、みんなと同じように一日一日を送り、自分らしく楽しく過ごしているように思います。私は、保育園の頃から仲良くしている障害のある男の子がいます。その子には、とても魅力があります。たくさんのトンネルの名前や、私が住んでいるところから学校までの道の名前の、名前を覚えるなど、多くの知識を持っています。何かを調べるときや、そのことについて話すときは誰よりも輝いて見えます。

私が小学校の高学年になったあたりから、「美宙ちゃん！美宙ちゃんの家から学校まで〇〇つという道があるね！」や、

「美宙ちゃん！あそこのトンネルの名前は、〇〇だね。その後は〇〇だね。」など、その子自身から楽しそうに話しかけてくれるようになりました。ときには、誰も知らないような、難しいことを教えてくれます。

私が、「あそこの道はなんていう名前なの。」と聞くと、

「〇〇つという名前だね、そこには〇〇君が住んでいるね！」

と詳しく教えてくれます。その子が生き生きとしている姿を見ると、私も周りの人も幸せになります。その子には、たしかに障害があります。しかし、みんなと同じように、その子は自分らしく毎日を生活しています。

私は、中学二年生のときに、福祉施設でのボランティアに参加しました。その施設を利用されている方の中には、認知症の方もいました。あらかじめ、私は施設のスタッフの方に、

「認知症の方は、何度も同じ話をすることがありますが、もう一度同じように接してくださいね。」と教えていただきました。認知症のある利用者の方とお話をしていると、何度か同じ話をしてくださることがありました。私は教えていただいたことを活かして、その話を初めて聞いたように相づちを打ちながら聞きました。しっかり対応できたかは分かりません。しかし、自然に接し、お話をすることで利用者さんも笑顔になってくれました。私は最初、認知症である方に対し、たくさんのことを気をつけなきやと思っていました。そんな風に、どこか壁を作っていました。しかし、いざお話をしてみると、おもしろいお話をしてくださり、私を笑顔にしてくれました。認知症の方とも、認知症でない方とも自然に楽しい時間を作れました。

私は今まで過ごしてきた、障害をもつ多くの人と関わってきました。その中で考えることは一つです。それは、どんな障害があっても、または障害がなくとも、人それぞれということ です。障害のない人でも、その全員が同じではありません。人はみんな違います。人には個性があります。その人自身の生き方があります。どこか欠けていたとしても、それは悪いことではありません。あの子は障害があるから優しくしてあげよう、他の人よりもたくさん気にかけてあげよう。そういうことも大切だと思います。しかし、障害のない人とは違うからという理由だけで過剰に干渉するのはその人のことを助けているのでしょうか。障害に対して理解を深め、その人自身のことも理解するべきだと思います。障害をもつていようと、その人の生き方を尊重するべきです。障害があると、どこか壁を作ってしまうかもしれません。しかし、人が輝くのは、自分らしく過ごしているときです。お互いを理解し合って過ごせば、誰もが輝けるようになります。私は思います。